

議

長 日程第1「一般質問」を行います。

一般質問に入る前に、事務局は録画の準備をしてください。

昨日に続き、一般質問を通告順に行います。受付番号第7号、北村和士君の一般質問を許します。登壇願います。

1 番 北 村 議長の許可を頂きましたので、質問させていただきます。受付番号第7号、質問議員、第1番 北村和士。質問、松田町が子育て世代に選ばれるための方策について。

要旨。松田町は10年前の2014年に2040年までに消滅の可能性がある都市と指定されました。しかし、今年4月、2050年までの消滅可能性都市が発表され、その不名誉な称号から見事に脱却することができました。

チルドレンファーストを念頭に、これからさらに町の発展に取り組んでいかれると思います。その中で、特に松田町が子育て世代に選ばれるための方策について伺います。

(1) 子育て世代の転入・転出の主な事由について。

(2) 具体的な方策について。

お願いいたします。

町

長 皆さん、おはようございます。定例会2日目、よろしく願いいたします。

それでは、北村議員の御質問に順次お答えをいたします。1つ目の子育て世代の転入・転出の分析については、まず国が提供している地域経済分析システム、通称リーサスと申しますものを活用し、子育て世代であると考えられる20歳から40代の転入・転出状況を調査した結果、令和元年から令和3年、また令和5年において転出超過の傾向が見受けられ、コロナ禍の令和4年のみ転入超過となっております。

転入先及び転出先は、ほぼ同じ傾向でありまして、小田原市・秦野市が多くなっており、そのほかの自治体といたしましては厚木市や海老名市など小田急線沿いの自治体が上位に上がっております。このことから、転入・転出者は本町の隣接自治体に多く存在することと推測しております。また、役場町民窓口での転入・転出実態調査において、最も多かった理由として、転入では就職、

転勤などの仕事によるものや、交通の便がよい、親族が近いなどでございました。転出では、転入同様、仕事の関係や交通の便によるものとなっております。

同時に記入いただいた主な意見や提案では、近くに買物ができる場所が欲しい、安全で安心な広い公園が欲しいなどの御意見がありました。移住者を呼び込むためには、それぞれの家族のライフスタイルに合った生活環境と、ついでに住みかとなる住宅などが町内に供給されることが重要であるとも分析しています。

令和元年に策定いたしました松田町第6次総合計画にも記載があるとおり、住宅施策として民間住宅の建設促進、良好な住宅宅地開発の誘導が果たす役割は大きいものと考えており、今後もまちづくり条例に基づく指導・助言を含め、民間事業者の活力などを導入し、優良な住宅供給が進むよう、宅地開発に伴う道路後退整備や有効な開発事業の実施に向けた県条例に基づく地域土地利用計画の見直しなど着実に進めていますので、今後徐々に転出超過に歯止めがかかってくるものと期待をしております。

2つ目の御質問にお答えをいたします。チルドレンファーストを念頭に、本町を選んでいただくための具体的な施策といたしまして、令和6年度は教育環境の充実に向けた松田中学校整備事業や、松田幼稚園大規模改修工事、令和7年度に工事の実施を予定しております寄小学校大規模改修工事の調査設計費や子供たちの健康増進とスポーツ活動を通じた健全育成事業の地域スポーツ活動推進事業、また寄地区に特化した子育て世代及び若年夫婦世帯を支援する移住定住促進奨励金、寄地区の地域資源を活用し、町内外の消費者となる関係人口が集まることで、地域内の経済の好循環による新たな雇用の創出の場の確保や、スポーツ移住を施し、寄幼稚園・小学校の存続を目的とした寄みやま運動広場人工芝生新設工事、子供たちをはじめ町民の安全・安心対策として、自転車ヘルメット購入補助、さらには地域の方の安らぎ、コミュニティーの場となるよう、安全で楽しく遊べる公園の促進に向けた公園整備を進めており、令和6年度はアーバンスポーツパークを整備し、スケートボードなどが楽しめるように環境を整える予定としております。

また、これまで同様、子育て支援については、子育て世代が安心して出産、子育てができるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない様々な支援事業を継続実施してまいります。

本町の子育て支援事業は、兵庫県明石市や2019年に合計特殊出生率で2.95となった岡山県奈義町の取組とさほど変わりなく、むしろ本町が充実しているところもございます。しかし、現状は理想にほど遠い状況でありますので、若年世代に選ばれる、選んでもらえる町になるために、町の魅力や子育て施策等を知ってもらえるよう、PR強化やニーズ調査にも取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

1 番 北 村 御回答ありがとうございます。それではですね、1点目の子育て世代の転入・転出の主な事由について伺います。まずはですね、従来から松田町には住むところが少ないと言われてきたので、宅地開発の対応にですね、希望を持つことができます。ありがとうございます。

さて、転入・転出の主な事由についての対応ですが、就職とか転勤などの仕事については、町内への企業誘致、交通の便については交通事業者や県・国への投げかけにより強化できるかと思いますが、いずれにしてもですね、松田町単独では強化しにくいことが主な事由になっていると理解いたしました。

そこでですね、上記も含め、回答数がどれくらいだったか、そのほかの事由も含めて、上から大体10番目ぐらいまで確認したいのですが、お願いできますでしょうか。

参事兼政策推進課長 御質問にお答えさせていただきます。転入・転出アンケート調査でございます。こちらのほうはですね、町民の窓口で行っています調査でございます。過去2年間のデータを見ますと、回答していただいた方がですね、120件ほどです。120件のうち、1位であった割合61%がやっぱり就職、転勤などの仕事です。これは転入・転出とも同じような状況になります。その次が11.1%で、新築、住み替えなど住居の関係でございます。その次3位としまして、これは9.3%になりますが、結婚が第3位。そして第4位が家族・親族からの転出ですとか独立でございます。転入のほうは、同じように家族・親族に近いという

ところでございます。そしてですね、5位につきましては、親と子供との同居、近居というところでございます。こちらのほうは3.7%ですね、全体の。5位。そして6位は、ほとんど少ないんですけども、よりよい周辺環境を求めてということの転出の状況が多かったところでございます。そのほかについては、残りその他というところの回答が最後になります。以上でございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。今頂いたですね、情報を基礎にですね、私のほうでも松田町で比較的早くできることを研究してですね、今後提案させていただきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

続きまして、2点目、具体的な方策について伺います。まずは数々の具体策の実施ありがとうございます。住む場所はですね、今、インターネットの発達で遠方の物件でも現地に行かずに詳細を把握できるようになったことや、リモートワークやフリーランスの普及により働く場所にとらわれないライフスタイルが広がったことにより、選択の幅が広がっています。この流れは今後さらに加速することを考えると、これからは自治体のサービスによって住む場所を選ぶ傾向がより顕著になることが予測されます。そう考えた場合、松田町としては子育て世代に選んでもらえるような住民サービスをさらに充実させる必要があるのではないかと思います。

そこで、まずは現在の子育て世代の状況を把握するために伺います。今年入園の年齢になった松田町在住の子供は幼稚園と保育園では何人ずつになっていますでしょうか。よろしく願いいたします。

教 育 課 長 それでは、北村議員の御質問にお答えをさせていただきたいと思います。今年入園の年齢になったということでございますので、令和2年の4月2日から令和3年の4月1日生まれのお子様が、4月1日現在でございますが、松田町に50人いらっしゃいます。うち公立の幼稚園が、松田幼稚園が13人、寄幼稚園が3人で、16人、率にして32%でございます。続きまして私立の幼稚園に入園なさったお子様が5名ですので、割合は10%となります。そのほかが保育園になります。保育園が28名で、合計49名でございますが、1名はどこにも通われてないというふうに捉えております。その方が58%ということになります。以

上でございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。ということは、松田町で、松田幼稚園と寄幼稚園合わせて通われている児童は全体の3割ほどなんですかね。これは昨年と同じぐらいの割合になりますでしょうか。よろしく願いいたします。

教 育 課 長 昨年の数字でございますが、去年は分母のほうが51名で、町の幼稚園に通われているのが26名ということで、51%ぐらいというところになります。以上です。

1 番 北 村 去年が51%で、今年が30%程度ということで、かなり急激に下がっているように見受けられるんですけども、要因はどのようなことをお考えでしょうか。お願いします。

教 育 課 長 分母となる対象者の減少もあるんですけども、あとは幼児教育の無償化による私立幼稚園への入園と、あと保育園への入園といった複合的な要因かというふうに捉えております。

1 番 北 村 ということは、私立幼稚園の幼児無償化…無償化もあると思うんですけど、保育園の割合もかなり多くなってきているというのは考えてよろしいでしょうか。お願いいたします。

教 育 課 長 その部分は相対的な部分でございますので、幼稚園の割合が下がった分、そのほかの私立の幼稚園と保育園が上がっているというところでございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。さてですね、今の情報からもですね、松田町でも保育園に通われている子供たちが相当多いことが確認できたと思われま。それはイコールですね、子育て世代は共働きの世帯が多いとも言い換えられるかと思ひます。共働き世代で社会課題となっていることと言へば、小1の壁問題でございます。これは小1の壁というのはですね、小学校入学を機に子供の学校以外の居場所に困り、親が仕事と子育ての両立が難くなるという社会的な課題として取りざたされています。松田町で言うと、さくら保育園は延長保育まで入れると最長で7時から19時、12時間預けることができますが、小学校になると開門の7時45分から学童保育を使っても18時までしか預けることができません。つまり、小学校1年生になると、朝の7時から7時45分、夕方の18時か

ら19時は親が対応する必要があります。これにより、親はその時間を捻出するために、仕事を換えたり辞めざるを得ない状況です。

ちなみにですが、子供が小学生になると、多くの企業で時短勤務ができなくなります。厚生労働省が実施した令和4年度雇用機会均等基本調査によると、約72%の事業所で子供の小学校入学以降は短時間勤務ができないということが分かっています。

放課後NPOアフタースクールが2023年2月に実施した小1の壁に関するアンケート調査では、子供の小学校入学に当たって働き方の見直しを検討した保護者は50.7%、約半分、そして12.4%の保護者が実際に正社員から別の雇用形態に変更したと回答しています。働きたいと思っているのに働けない、それを何とか松田町として支援してあげることができないかなと思っています。具体的に言えば、現在松田小学校は朝、生徒が門の前で7時45分の開門を待っている状況です。そして7時45分になって開門しても、校舎の中には入れません。そこから8時に校舎が開くまで敷地内で待ちます。私も先日、松田小学校に伺いましたところ、7時45分の開門を待っていた生徒は13人、そして開門後に校舎が開くのを待っていたのが7時50分時点で48人、7時55分では100人以上が今か今かと校舎に入れるのを待っていました。今は温暖な気候ですので、楽しそうに談笑してほほえましい光景でしたが、梅雨時や夏、そして冬が来ます。特に冬の寒空の下で何分も子供たちを待たせているのは酷ではないかと思います。

そこで伺います。開門の時間をですね、7時45分よりも前、理想で言えば保育園と同じように7時にすることはできませんでしょうか。よろしく願いいたします。

教 育 長 今、議員の御指摘のとおりですね、松田小学校は現在ですね、警備員の方が7時45分に門を開けているような現状がございます。私もですね、1日、15日は挨拶運動がございますので、何度かですね、松田小学校の校門のところに立ってですね、子供たちに挨拶を交わしたりとか、あるいは通勤途中にですね、松田小学校の前を歩いて子供たちの様子を見ながらですね、出勤をしたことも

何度かございます。その中でですね、警備員の方に実際お話を聞いたことがございます。大体おおむねですね、7時40分、一番早く来る子供たちですね、7時40分前後に登校してくるというふうにおっしゃられておりました。大体ですね、私が見た限りでも、ほぼほぼ7時45分前に校門のところで待っている子供たちは、およそですね、10人前後かなと、そんなふうに私は把握をしております。

そのような現状の中ですね、今、議員御質問の7時に開門するのはどうかということでございますが、7時に開門するだけではなくて、その後も子供たちの居場所をどうするかということにも併せましてお答えさせていただきたいというふうに思っております。県費教職員の勤務時間のことでございますが、拘束がですね、8時間30分、実働が7時間45分ということで定められてございます。松田小学校を例にとりますとですね、8時15分出勤の16時45分退勤ということになっております。昨今ですね、教員のなり手不足を補うためのですね、教職員の働き方改革あるいは待遇改善という観点からですね、7時に門を開放した後にですね、その後の子供の対応を教職員が対応するというにつきましては、なかなか難しい、無理もあるかなというふうにも考えておりますが、今後ですね、保護者のニーズをですね、確認しながら、町当局ともいろいろ相談をしながらですね、教育委員会としてもこの問題については検討していきたいなと、こんなふうに考えております。

- 1 番 北 村 御回答ありがとうございます。確かにですね、先生たちのことも考えなければならぬので、昔のようにですね、全て学校のことは先生にお願いするというのは、もう無理な時代だというのは認識してございます。ただですね、全庁的な支援があれば、可能ではないかなと思っております。全国的に見ると、大阪の豊中市が今年4月からですね、39ある全ての市立小学校で午前7時に校門を空けて登校時間まで児童を体育館で見守る事業を始めています。警備員が午前7時に校門を開け、登校してきた児童を見守るために、各校に2人ずつ民間スタッフを配置する。関連予算として、約7,000万円だそうです。39校で7,000万円ということは、豊中市方式だと1校につき大体180万円程度かかるというこ

とです。豊中市方式を採用するか否かというところはありませんけれども、多くの予算は必要とするかと思います。しかし、働きたい方に働いていただければ、その分、町としては税込で返ってくるかと思います。

また、近隣町を調べたところ、大井町では大井小学校が開門7時40分、相和小学校の開門7時45分、上大井小学校7時50分。開成町では開門が7時45分。開成町ではですね、開門を早くしてほしいという子供たちからの要望は多いので、検討を始めているとのことでした。ただ、今のところですね、近隣町で小1の壁対策に対応している自治体はございません。

ここで全庁的な話ということでお聞きしておりますので、町長に伺います。子育て世代の他町への転出も防ぎ、転入のきっかけにもなるという意味でも、町として投資的効果は高いものになるかと思いますが、いかがでしょうか。

子育て健康課長 学童保育という観点からですね、お答えさせていただきます。学童保育については、今ですね、放課後から18時まで保育を行っております。朝の時間帯については、今、開放はしておりません。

子育て世代の方がですね、就労したいという、就労支援というところとか、あと児童に対する安全面の確保ですね、そういったところからですね、学童保育の例えば朝の保育ですね、そういったところも一つ必要になってくるのではないかなと考えられます。ただ、それをするには支援員の確保ですとか、あと勤務、支援員の方の勤務状況、あと人件費ですとか、その他経費が必要になってきます。また財源とかも必要になってきますので、そこら辺、課題がですね、ありますので、学童保育のほうとしましても、今後ニーズをお聞きしていきながら、よりよい子育て支援になるよう調査研究をしてみたいと、担当課のほうでは考えております。

町長 担当課のほうはそう考えているということですが、本当に考えてもらいたい話だと、私もそう思います。選ばれる町になってないんですね、今、恐らく。ニーズがちょっと町が考えているニーズと、現在やっぱり子育てをされているニーズに乖離があるのかなというのは、非常に危機感を本当に持っています。今、子ども・子育て計画の策定が、改定も含めて今、スタートしたばかり

なんですけども、その場の挨拶でも、知見を持たれた方々がたくさんいらっしゃる中で、今現在、先ほど教育のほうでも公立の幼稚園が選ばれる選択肢になってなさそうな傾向にあるというようなことで、私はそういう理解をしています。さらに保育園に預けるニーズが高くなっていることは、北村議員が言われているようなことだろうというふうにも理解をしていますので、早急にそういった選ばれる町になるための対策を、金で解決できるんだったら、やるべきことは何だってやったほうがいいかなと。ただ、限度は当然あるにしても、やるべきだというふうに考えております。

幾つかちょっと御紹介すると、朝の部分はないですけど、夜…夜というか、午後の分は学童以外に第三の居場所づくりということで、町の体育館のところ、ユイスポーツさんのほうで補助金をもらって運営をしていただくところで、午後はまた場所が1つできたなと思ってます。来年からスタートするコミュニティ・スクールというのが教育のほうで今、中心でやっていただいていますけども、そういった場所でのいろんなコミュニティーをやっていただける人という部分でいくと、そういった方々にも、朝どうですかとか、そういうふうな格好でお願いしつつ、そこには多分賃金というものがまた発生するかと思えますけども、そういったことなんかを両面でバランスよくやってですね、できることはやっていきたい。早々にニーズ調査をして、対応できるのであれば早い段階で補正を組むなりして、一日も早く町のイメージをそういった面で行くと開放して行って、多くの方々に松田町に住んでいただくように対応していきたいというふうに考えています。以上です。

- 1 番 北 村 前向きな御対応、御回答ありがとうございます。先に挙げたですね、豊中市の事業は、開門時間を7時にしただけでという言い方もあれですけども、しただけでNHK等にも取り上げられ、全国放送されました。学童保育の延長等まで松田町が実行できましたら、小1の壁対策としてですね、全国的にPR効果は高いものになると考えられます。冒頭の回答の中でも、全国的に取りざたされている兵庫県明石市や岡山県奈義町の取組に見劣りしない松田町の子育て支援事業が成果を出すためには、PR強化が必要と頂きました。僕もそのとお

りかと思えます。今回の提案は、PRという意味でも十分に効果的であると考
えます。私もできることはいたしますので、早期の実現に向けてですね、動き
出させていただきますよう、よろしくお願いいたします。

またですね、松田幼稚園の生徒数の急激な減少について伺いましたが、それ
についてもできることはあるかと思えますので、続けて伺います。入園前に行
われる幼稚園説明会は、いつ頃開催していますでしょうか。よろしくお願いいたします。

教 育 課 長 それではお答えをいたします。幼稚園の入園の説明会でございますが、幼稚
園につきましては10月に入園の事前説明会というのを行っております。また、
その引き続き2月に入園準備会を行って、そこで入園を確定させると、予定さ
せるというところで動いております。以上でございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。公立の限界というのも私なりには理解しております
ので、単純にですね、公立と私立を比べることはできないとは思いますが、
保護者が学校を選ぶ際には、どうしても公立と私立を同等に見比べるので、
それを御理解ください。例えば、保護者が初めて通わせる公共的な教育機関は
幼稚園だと思えますが、私立だとですね、入園前年の5月ぐらいから説明会が
始まります。しかし、松田幼稚園だと10月なんですよ。保護者としては、初
めて通わせるという不安感から、できるだけ早く計画したいという思いがござ
います。せっかく松田幼稚園ではですね、豊かな自然環境の中での体験や、英
語教育の導入、そして18時までの預かり保育の実施、フレンドリーに接してい
ただける先生や職員さんなどですね、すばらしい教育環境を整えているのに、
説明会が遅いためにですね、保護者の選択肢に入らないことを非常に残念に思
っています。選択肢に入るよう、説明会をですね、前倒し、理想で言えばです
ね、5月ぐらいにすることはできませんでしょうか。よろしくお願いいたします。

教 育 課 長 保護者にとってもですね、我が子を幼児教育ですね、どの幼稚園、保育園に
入園させるかというのは、その後を左右する大変重要な選択であるというのは
我々も感じております。説明会が遅いので保護者の選択肢に入らないのだとし
たら、それは非常に残念なことであります。議員おっしゃっていただいたとお

りですね、現在の魅力ある幼稚園の取組を保護者の方に実感していただくことが入園に結びつくのであれば、それはぜひ町のほうとしてもですね、そのきっかけづくりになれば、対応してまいりたいと思います。例年、具体的には幼稚園ではですね、6月と11月に園の公開、園公開というのを行っております。それは在園児の保護者であったり、地域の方に園での子供たちの様子を公開しております。その機会に合わせてですね、事前に入園要件を満たすお子様にですね、周知をいたしまして、足を運んでいただくなどが考えられますので、その部分につきましては今後園と相談しながら、実施に向けて検討してまいりたいと思います。以上でございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。せっかくすばらしい幼稚園、児童が少なくなるとですね、運営の方法についてまた今後検討しなくてはならないかと思います。まず当面はですね、説明会の早期開催とか、入園年齢前ですね、児童の保護者宛てに、来年から幼稚園に入れますよとか、こんなことをやっていますよなんていう手紙を出すとか、50名、51名ぐらいだったら、そんなには手間にならないんじゃないかなと思いますので、そういうPRの面でですね、御対応いただければと思います。よろしく願いいたします。

さてですね、子育て世代が一番注目していることは、やはり教育です。そのことを町でも考えてですね、小学校の木造化や各校舎の大規模改修等、ハード面の再整備を行ったかと思います。次に取り組むのは、ソフト面の強化になるかと思いますので、その点について伺います。教職員の異動が多い公立学校で、私立ほどの特色を出すのはなかなか難しいことは理解していますが、選ばれる松田町を強化するためには、それでもできるところから始めなければならないかと思います。そこで、より特色をつくるために、地域などとの連携が考えられると思いますが、どのようにお考えでしょうか。よろしく願いいたします。

教 育 長 今、議員御指摘のとおりですね、今、学校ではですね、不登校、それからいじめ問題、あるいは部活動の地域移行、さらにはインクルーシブ教育、ICT教育等ですね、等々多くの課題を抱えてございます。そのような現状の中ですね、議員がおっしゃられたとおりですね、地域の方々や保護者の皆様との連携

協力というのが、今の学校にとっては欠かすことのできないものであるというふうに考えてございます。

今現在ですね、学校や園においてはですね、学校評議員という方を設置してございます。その学校評議員の方々がですね、いろいろな学校経営、あるいは園経営について、いろいろな御意見を頂きながら、今それぞれ経営をしているところでございます。令和7年度におきましては、学校運営連携協議会制度あるいはコミュニティ・スクールという制度を導入して、より一層地域との連携を深めていこうというふうに考えてございます。

1 番 北 村 ありがとうございます。特色ある学校は松田町の魅力の一つになります。地域やですね、そういったところと連携してですね、松田らしさの創造、松田町に愛着のある子供たちを育成してほしいなと思いますので、よろしく願いいたします。

松田町はですね、大都市から近い分だけ、成人すると松田町から出て行きやすい環境です。しかし家庭を持って、子供ができ、教育を考えたとき、松田町で子育てしたいと、そう思えるような経験をプレゼントすることで、将来的に戻ってくる方が増えるのではないかと思います。冒頭でも申し上げましたとおり、転居しやすい環境が加速するというのは、松田町に転入しやすい環境も加速するということです。それをチャンスと考え、できるかできないかではなく、どうやったらできるのかを考え、一緒に行動してまいりましょう。

最後に町長、全て通しまして、御意見ございましたらお願いいたします。

町 長 一部個人情報もあるので、あまり詳しいことは言えませんが、北村議員もたしか子育て世代真ただ中というふうなことで、今日は子育て世代の代表として様々なお知恵を頂いたと思います。最後お言葉を頂いたように、一緒にやっっていこうという言葉がものすごく大事だなというふうに感じています。このところコロナがあって、行政が先頭に立ってやるような事業が多くて、何か、何となくそういうふうな雰囲気の中で今年、令和5年度が1年終わって、令和6年度もそのまま来ているかなと思っています。やっぱりそういうことでなくて、やはり地域の方々と行政が一緒になって、こういった課題を解決していく

ことは非常に大切だというふうに思っています。特に人口減少が進んでいる中であるからこそ、一体感を持ってやっていきたい。そこにはやっぱり当然、年関係なく、若い方々も含めて一緒にやっていくような雰囲気づくりを町としてやっていきたいと思っていますので、議員の皆さん方も御協力をそんな格好でいただきながら、今後共に歩んでいければと思っていますので、よろしく願いいたします。以上です。

1 番 北 村 ありがとうございます。これで私の一般質問を終わらせていただきますが、最後にですね、議員となって今日を含めて3回の質問をさせていただき、どれも前向きな回答を頂いたと思っています。ありがとうございます。具体策については皆様にお任せしておりますが、言い出した側としてですね、僕のほうにも実行されるまで見守る責任があると思います。そのためにですね、今後もたびたび皆様のところに伺いますので、お忙しいところ恐縮ですが、よろしく願いいたします。これで…（私語あり）

議 長 すみません、時間が過ぎていきますので。

1 番 北 村 これで一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

議 長 以上で受付番号第7号、北村和士君の一般質問を終わりにします。少しお待ちください。